

## 【中学生の部】奨励賞

### 『雨の降る日は学校に行かない』（相沢 沙呼／著）

青森市立造道中学校 3年 柴田 里美香

この本は、学校に溶けこめなかった六人の女の子たちのお話です。私は、いつも空気が読めず相手に迷惑をかけてしまうことがたくさんありました。誰かの役に立ちたくても、それが「おせっかい」と言われ、どうすれば良いのか、ずっと考えていました。

その時、この本の中に出てきた森川さんがいました。その子はクラスの子にからかわれ、一人悩んでいました。その時にクラスの岸田くんに言われた一言「自分に嘘をついてまでみんなに合わせたって、きっとなんの解決にもならない。」それで私は気がつきました。自分ができることを貫けば良いと思いました。

今の私たちにある悩みに耳を傾けてくれる一冊だと思います。

### 『よるのばけもの』（住野 よる／著）

青森市立甲田中学校 1年 齋藤 子絵

「仲間意識」というものは、学校生活の中で一番こわいものかもしれない。私が薦めるこの本は、夜になると化け物になる不思議な力を持った少年と、ちょっと変わっていて、クラスでいじめを受けている少女との関係を描いた物語だ。私は「仲間意識」について考えた。私たちが集団の中で生活する上で「仲間意識」というものがある。私もその中で生活する一人だ。この物語の少年も「仲間意識」におびえながら毎日を過ごしている。実際私も、何をすれば仲間外れにされるのかがこわくて、自分の意見を言えない時がある。それは私だけではないはずだ。だから私のような中学生に、ぜひこの本を読んで「仲間意識」について考えてほしい。

### 『私は私のままで生きることにした』（キム・スヒョン／著 吉川 南／訳）

深浦町立大戸瀬中学校 3年 吉田 彩菜

みなさんは、自分の考えや意志を大切にしているだろうか。私は、周りに流されて、自分の意見を表現できないことがある。また、友達から言われた何気ない一言を考えすぎたりして、悩むことが多くある。しかし、この本では、誰かからの言葉を一個人の主観的な意見として受け止めることが大切と述べられていた。私は、この本を読んで新しい考え方に会うことができた。

人の意見を聞くことも大切だが、その意見に影響されすぎて、自分の意見を表現できないのは、「ありのままの自分」とは言えないだろう。自分らしく生きていくためにはどうすればいいのか。その答えとなるヒントが、この本にはきっとあるはずだ。

### 『風に恋う』（額賀 滯／著）

弘前市立北辰中学校 3年 工藤 芽以花

青春とは一体何なのか。私は苦しいほどのエネルギーを帯びて成長する人生のほんの一瞬だと思う。

受験、人間関係そして部活動等を乗り越えなければいけない中で、自分の“好き”を無我夢中に追求することの難しさはコロナ禍の今、特に多くの人が共感できるだろう。私はテストに追われ、生徒会副会長と吹奏楽部部長の二つを背負い自分を見失いそうになったとき、この本から大きな活力をもらった。今の自分にまっすぐに向き合い、なりたい自分になるために必死で努力する覚悟がついた。

あなたも、喜びや悲しみ、迷いや後悔、様々な感情が混ざり合う青春の力を全身で感じてほしい。そして、今を必死に生きてほしい。

### 『私は私のままで生きることにした』（キム・スヒョン／著 吉川 南／訳）

むつ市立大平中学校 2年 岡本 紗樹

この本は作者である、キム・スヒョンさんが日常生活で感じたことを、力強いエールに変えて届けてくれる本です。

この本を読んで、今までは何もできない自分はダメだ。と強く思っていましたが、そんな自分も、この世界にたった一人しかいない存在なのだと、この本を読んで気づくことができました。また、すべての人に理解されるために生きているのではない。という言葉に私はとても救われました。正しさを証明するために頑張る、という自分の縛りからやっと解放された気がしました。

この本は、一つ一つの言葉に優しさが詰まっているので、たくさんの悩みを抱える中高生だからこそ読んでほしいです。

## 『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』

(マララ・ユスフザイ／著 パトリシア・マコーミック／著 道傳 愛子／訳)

八戸市立湊中学校 2年 沢尻 桃花

この本は、平和に生きる権利のため、人間らしい扱いを受ける権利のため、平等に機会を与えられる権利のため、教育を受ける権利のため、戦った少女の話が書かれている。世界を変えようと願い、そして実際に変えた少女の物語。勇気づけられる内容になっている。日本に住んでいる私たちには、まず世界を知ることが大切ではないか、そのためには本を読むことも大切と分かった。読み書きは生きていくために欠かせないことだが、それだけでなく本を通してどれほど豊かに世界が広がるか、私たちは知っている。マララさんが「立ち上がらなくてはいけないのは私なんだ」と思ったように、私たちには責任があると感じた。

## 『この川のむこうに君がいる』(濱野 京子／著)

八戸市立是川中学校 3年 木村 莉緒

「同情」。良い言葉の響きのようにだが時に人を苦しめる。自分の知られたくない過去のこと、今の現状。同情しているだけだからと、まるで私の味方だよと言うように、平気な顔で言いふらすのはどうしてだろう。この本の主人公、梨乃も「同情」に悩まされていた。東日本大震災を体験し、かわいそうな子だと周りから思われ続けた。良かれと思う同情も人の生活を変えてしまう。自分の過去を、目の前で見たものを、一瞬で、同情で片づけてほしくない。

大事な人を失うこと、その地に住めなくなること……。その人の過去は、その人にしか表せない。自分の過去を見つめ、他人の過去を考えるきっかけとなる一冊である。

## 『表参道高校合唱部！ 10000回だめで へとへとになっても』(櫻井 剛／脚本 桑畑 絹子／著)

八戸市立是川中学校 3年 関川 陽菜

将来の夢。目指すのは簡単だが、目指し続けることは簡単ではない。進路を決めている中、このまま夢を目指し続けられるのか不安であと一步のところまで踏みとどまっていた時、この本に出会った。「曲がり角の先の景色は、曲がらなきゃ見えない。立ち止まったままじゃ、何も見えないんだよ。」という言葉が私の背中を押してくれた。立ち止まったままじゃいけない、たとえ進んだ先で後悔をしても、それは私の「経験」という名の財産になる。この本は、私たちがたくさん曲がり角を曲がって、たくさん「経験」をして大人になっていくということを教えてくれた。

あなたも、この本からいろんな自分の曲がり角を見つけてみませんか。

## 『また、同じ夢を見ていた』(住野 よる／著)

八戸市立江陽中学校 1年 佐々木 陽奏

主人公・奈ノ花は、様々な過去を持つ女性たちとの不思議な出会いを通して幸せとは、人生とは、生きる意味とはを考えていく。この本を図書室で見つけたとき「今の私を考えないと…」と、ビビンときた。きっと誰にでもやり直したいことがあるだろう。みんな、幸せになりたくて、心豊かに生きたくて…。だから少し戸惑ってしまったり、考え込んでしまったり。それでも頑張っって前に進もうとしている。人生にゴールなんてない。今のままの、そのままの自分を動かしていくだけ。それでいいのだと、この本を読むと自分を肯定できる気がする。自分に自信を持っていいのだと思うことができる。人生を変える言葉に出会える、この本はそんな一冊だ。

## 『説明がつかない現象と私が生徒会に入った説明』

(葵 日向子・木爾 チレン・狐塚 冬里／著)

八戸市立北陵中学校 1年 藤田 茉那

「きみの手は、どんな温もりだったのだろう。もう僕は、何も、知ることができない。」この言葉は、もう今には戻れない、過去を悔やんでもどうしようもできない、そんなことを伝えたいのだと私は思う。私自身、過去に人間関係で上手くいかなかったことが何度もある。その度にギスギスした日々を送っていたが、思い返すと、自分の気持ちを伝えきれていないことが原因の一つではないかと思った。だからこそ、冒頭で紹介した言葉が、私には、心に残るものとなった。読み手によって刺さる言葉、感じることはそれぞれだろう。青春と恋、そしてミステリーをテーマにくり広げられる学校生活を描いたこの本。ぜひ、手に取ってほしい。